



わかば

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新



定期テストの結果!



9月5日に実施致しました定期テスト(小学部：前期の全テストの平均、中・高等部：前期学力テスト)の結果一覧を掲載しました。このテストは、前期に学習した内容が理解され、定着しているかどうかを確認するためのテストで、学年にもよりますが、概ね80%の正答が得られれば理解できていると判断してよいと思います。

【2015年度 前期定期テスト結果一覧表】

国語		平均点			算数・数学		平均点		
		2013年	2014年	2015年			2013年	2014年	2015年
小学部	1年	95	92	94	小学部	1年	96	95	96
	2年	90	89	85		2年	89	94	88
	3年	82	76	80		3年	91	89	86
	4年	79	79	75		4年	83	88	84
	5年	71	77	81		5年	81	87	88
	6年	90	82	87		6年	90	83	91
中学部	1年	84	84	75	中学部	1年	74	83	74
	2年	75	78	79		2年	82	79	85
	3年	70	77	83		3年	75	67	78
高等部	1年	61	54	86	高等部	1年	62	52	65
	2年	60	67	70		2年	65	64	72
	3年	55	73	75		3年	70	55	59

一覧表を見ますと、小学部低学年においては90点前後にほとんどの子どもが集中していることが考えられますが、学年が進むに連れて得点が徐々に下位方向に進んでいることがわかります。これらのことは、学年が進むにつれて内容が難しくなり、子ども達の理解度に差が生じてきていることを表しています。小学部中学年では、勉強以外のことにも気が向いてやや中だるみの傾向にありますが、小学部高学年になると、それではいけないことに気がつき、少しずつ勉強することにより得点が回復しているように思います。理解不足とならないためには、学年に応じた学習時間の確保が大切です。

中・高等部を見ると得点のばらつき幅(理解度)が更に広がっています。これは例年の傾向のようで、学習内容が高度になり学習量も多くなることから、致し方ないことかもしれません。

日本でも、中学校や高校では、中間テストや期末テストは教師作成のテストで行うことが一般的で、その際の平均点は50~60点であることを考えると、ポートランド日本人学校の児童生徒はよく勉強していると思います。通常のアメリカの学校生活では必要のない日本語、特に漢字の学習には多くの児童が大変苦勞しているようです。わずかな時間でも日頃から毎日読書をしたり、漢字練習の時間を確保したりと、日頃の努力の積み重ねが大きな力となります。努力は必ず報われます。これからも、学校を休まず、真面目にコツコツと学習に取り組み、自分の人生の可能性を大きく広げてほしいと思います。

個人面談の内容や、通知表と合わせて、今後の学習の参考にしていただければと思います。子ども達がしっかりと学習に取り組めますよう、ご家庭のご支援をよろしくお願い致します。

児童生徒の作品

前期テストが終って

5年1組 伊藤 さくら

午前十一時二十五分、やっと全ての前期テストが終った。頭がギンとする。たぶん昼食をとればすぐ治るだろう。テストのスケジュールはこうだった。午前九時二十分～午前九時四十分 聞き取り、午前九時五十分～午前十時十分 漢字五十問、午前十時二十分～午前十時五十分 読解、午前十一時十分～午前十二時 算数。

聞き取りはかんたんだった。だが、朝体が冷えたのか、二十分間ずっとお腹がいたかった。テストがかんたんで良かったと約二時間たった今でも思う。

一番の難関が漢字五十問テストだ。みんな必ず二、三個は書けない漢字がある。私は漢字五十問テストがきらいだ。いつも知らない言葉が出る。その読み方で一生けん命解こうとすることが楽しい時もある。解いた後の達成感がすごいからだ。

読解はうらがすごくむずかしかった。勉強するはんいをまちがえたのだ。漢字は五十問テストの分しか勉強をしていなかったせいで、「厚」や「過」が思い出せなかった。そのテストを出す瞬間はすごく悔しかった。

算数のテストは意外と早く終った。わり算にもなぜか時間がかからなかった。国語と比べるともっとかんたんに思ってしまう。謎だ。タイトルと内容がなんとなく合っていない。大丈夫かなと不安に思いながら、先生からのコメントを待つテスト終りである。

ふしぎなまほうつかい

2年2組 山村 ジョナ洋志

ぼくが読んだのは、「ぼくは王さま」シリーズの「まほうつかいのチョモチヨモ」です。

チョモチヨモは2万8927才の子どもですが、王さまにまほうをかけました。それで、王さまがねむりました。はかせは、へんなくすりでおこそうとしました。だけど、王さまはらんぼうになって、ほんとの王さまはゆげになりました。さいごに、王さまが、どうやってもとにもどるのかわくわくしました。

ウエズレーの国を読んで

2年2組 笠崎 恵 瑞

この本には、ウエズレーという男の子が、じゆうけんきゆうのためにうえたしよくぶつで、「ウエズランド」というじぶんのくにをつくった話がかかれています。わたしがおもしろいと思ったばめんは、ウエズレーのうえたしよくぶつが、あたまより大きい花をさかせて、家より高いたかさになったところです。

わたしは、そんなしよくぶつは見たことがないから、おもしろかったです。

「やさしい日本語」を読んで

中学部2年1組 市川 瑛 実

現在の日本では、さまざまな国籍の人が暮らしている。なかには、日本語が得意な人、そうでない人、読み書きはできないが話せるといった、日本語力もさまざまである。そこで、今の日本では大きな課題に取り組んでいるのだ。その課題とは、今までの発想を転換して、日本語を外国人にわかりやすく簡潔にして伝えることである。これまでの日本社会では外国人への情報提供は英語、または各国の言語を使って伝えていたと筆者は述べている。しかし、突然襲ってくる地震などの厳しい災害下では、それをする事さえもできない事が目に見えてくる。さまざまな国籍の人が日本で暮らすようになった今、災害下での翻訳は人手も時間も足りない。そこで、日本語に不慣れな外国人を対象とした表現があるのだ。それは、やさしい日本語を使って緊急性の高い情報を伝えるということである。やさしい日本語を使うことによって、厳しい災害下の中で生き延びることができる人が増えるであろう。そして、日本に住む半分以上の外国人が、やさしい日本語の理解力が高いと予想されるため、生存率はさらに上がるであろう。

この大きな課題の最大目的は、難しい日本語に不慣れな人々が安心して生活できるように、安全に避難できるようにと考えられた課題であるが、しかし、これは決して外国人のためだけではないだろう。例えば、急に激しい地震が起きたとしよう。その時、親元を離れた幼い子どもたちは、その場でどのような行動を取ればいいのかなど、困惑してわからないであろう。そのような際に、周りが何らかの方法を利用し、やさしい日本語で取るべき行動などを伝えられれば、その幼い子どもたちも助かる可能性があるだろう。つまり、やさしい日本語は誰にでも重要な情報を伝えられ、一人一人の安全を確保するために欠かせないのである。